

檢察廳人事管見

加藤 淳平
かとう じゅんぺい

檢察庁黒川東京高檢檢事長の人事を巡り、政治的に些かの混乱あり。今ややや舊聞に属せりと雖も、我が感じたることを一言せむ。

もともとは、檢察廳が通常の人事案件なりしに非ずや。檢察廳の最高職は檢事總長にして、次が東京高檢檢事長、更にその次が名古屋等の高檢檢事長なるらし。問題となりたる黒川氏と、辭職せるその黒川氏が後任とて、東京高檢檢事長に任命せられ、今般檢事總長に就任せる林氏同期の檢事任官にして、同期中の順位は、夙に一番林氏、二番黒川氏にて確定し居りたるが如し。されど檢察廳の、定年間際の黒川氏を、定年まで東京地檢檢事長に任命し、林氏を名古屋地檢檢事長とせるは、暫定的人事にして、日本獨特の溫情人事なりしか。かくてこそ此度の迷走出來したりけめと回想せらる。

黒川氏は、檢事には珍しく、附合ひよき外向的性格の人にて、政治家・新聞記者と容易に親密なる關係を結ぶに得手なれば、檢察廳は、長く同氏を、實質上、檢察廳政治部長なるが如くに扱ひ、便利に使ひ來れりと傳ふ。定年に達せんとして、要職に補任^{ふにん}せられたるも、かかる渉外の功大なれば、これに報いんとの意図に出でたりとぞ察せらるる。

黒川氏自身、固より東京高檢檢事長たるを、自らが最後の職と心得、盡心竭力以て公に報ぜんとの覺悟ありき。同氏は政治家・新聞記者らとの、長年の附合ひに馴れたる人なれば、特に檢察廳にとり重要なる、菅官房長官以下總理官邸關係者との、よき人間關係を維持せんがために精勤し、官邸關係者亦、黒川氏の人柄の餘の檢事と異なるを喜び、斯くて雙方間に、極めて良好なる關係、成立せりと思はる。

やがて黒川氏定年來りて、檢察廳は何疑ふことなく、黒川氏の辭職と、未だ定年に達せざる名古屋地檢檢事長林氏の、東京地檢檢事長への移動の人事案の決裁を、官邸に求む。さは定年に達せる檢察官の引退と、それに伴ふ人事に過ぎざれば、檢察廳としては、官邸より、異議を提起せられむとは、想像だにせざりけむ。

されど異議提起せらる。異議を提起せる、何人なりやは、諸情報錯綜して、正確なる事實を確認し得ず。官邸に、會ての河野一郎或いは田中角榮の如き、非常識にして強引なる政治家あらば、政治家の、黒川氏引退とそが關聯人事に、自ら容喙するは、あり得ざることならず。されど官邸關係者の誰も知る如く、今の官邸に數人居る政治家に、斯く非常識にして強引なる、一人として、無きに非ずや。況んや菅官房長官、安倍總理に於てをや。

或る推測記事に曰く、官邸に何人かある警察出身者がうちの一人、黒川氏と親しくなりて、黒川氏の短時日にして、檢察の要職を去るを嫌へりと。警察と檢察には、特別にして微妙なる關係あれば、該警察出身者、黒川氏の如き附合ひ易き人物の、檢察が首腦に任命せらるれば、兩者が關係、圓滑なるを得むと考へ、そのため國家公務員法の規定の解釋變更により、黒川氏の定年を延長すべく、菅官房長官を説得したらむ。

この推測記事の信憑性如何を我知らず。されど官邸はその後、黒川氏を檢事總長に任ずべく、新たに檢察官の定年延長を法制化して、同氏の檢事總長任官に道を開き、併せて後附けなれども、同氏の定年延長に法的根據を與へたり。さはもともと菅官房長官が意向なりしや否や、分明ならざるも、今や黒川氏の件は、菅氏の專管事項なりと意識せらるれば、記者の取材を受けたる安倍總理、「菅さんが良し

と言ふなれば」と述懐せりとぞ。

黒川氏の斯く世の注視を浴ぶるに、『週刊文春』、同氏の、昵懇の仲なる新聞記者が自宅にて、賭け麻雀に興じたるを報道す。賭け麻雀固より違法なれど、賭けたる金額はいと少額なれば、通常は問題視せられること無けれど、檢察最高職務の候補の一人の、少額なりと雖も、賭博罪に抵觸する行爲をせるのみか、現下のコロナ禍により、總理自身、國民が外出自肅を呼び掛くる情況下に、外出自肅に反する行動を取りたる、世の指彈を受くるを免れず。黒川氏、本來自らが檢事總長の職に就くは異例なるを知悉すれば、情況に鑑みて直ちに辭表を提出し、問題は解消せり。

問題出来と混亂の経緯より、今後のための指針を探らば、次の如くならむ。

一 檢察廳を含め、財務省・經濟産業省・警察廳等の政府一流官廳の人事、概ね公正になさるれば、政治の恣意的容喙の好ましからざること

二 人事に限らず、下意上達・稟議制度・書類回覧による決裁等、日本に確立せる意志決定制度、多數且つ多方面に亙る關係者が利害を調整し、決定事項の實行を圓滑化する利點あれば、基本的に尊重せらるべきこと

三 但し二には、日本社會に「和」の意識強く、また權限規定の曖昧なること多きが故に、必要以上なる關係者が意思まで顧慮し、最終的意志決定に長時間を要する憾みあれば、權限規定の明確化等、是正措置の必須なるを、凡ての關係者の意識すべきこと

四 歐米等海外に於ては、上級者の判斷を行ふが原則にして、時に日本人よりせば、恣意的と感ぜらるる專斷的意志決定ありて、日本の意志決定とは、頻繁に齟齬を生ずれば、斯かる齟齬及びその間の調整の必然なるを、多數の者の辨ふること

五 今般の總理官邸が行動、政治家・官僚の間に、歐米の政治に倣ひ、總理の「リーダーシップ」を發揮するこそ、政治のあるべき姿なれとの、歐米追隨的固定觀念ありて、官邸關係者ら、總理・官房長官の名が下に、專斷的行動を採りたるに由りて、特に官邸關係者に、日本に於ては、淺はかなる歐米追隨の不當なるを理解せしむること

六 大學教育を受けたる日本人に、歐米追隨的思考強きは、世の人誰も知るところなれば、それが根源を尋ぬるに、敗戦後の日本占領米軍の占領政策、偏向教育により、日本人が國の意識と愛國心を奪ひ、歪曲せられたる學問により、歐米至上視と日本の傳統文化劣等視を植ゑつけ、新聞等の報道人には、日本と日本政府を容赦なく攻撃するこそ、「言論の自由」なれと信じ込ませしめたる、日本人洗脳工作に到るべく、日本の教育者・大學人・報道人に、今に残るそが影響を除去するに、全力を盡すべきこと

(令和二年七月二十四日受附)